

第4回 (2023 年度) 日本セラミックス協会功績大賞受賞者

きむら しゅうしち
木村 脩七 氏



木村脩七氏は、高温・構造用のセラミックス複合材料とそのプロセスの開発、および高信頼性セラミックスの評価理論・評価手法の開発に関する研究を通してセラミックス科学の発展に多大な貢献をした。中でも、複合材料に関しては、日本のオリジナルである炭素繊維（CF）を利用したCF強化炭素複合材料（C/C 複合材料）の開発のパイオニアで、C/C 複合材料の発展に大きく貢献した。評価に関しては、多結晶セラミック材料の高温特性が粒界に支配されることに注目し、粒界のモデル物質として二つの単結晶の方位を変えて接合させたマグネシア・バイクリスタルを世界に先駆けて作製し、粒界での拡散や亀裂進展等の基礎的知見を得て、耐火物や高信頼性セラミックス分野の基礎科学に大きく貢献した。これらの業績に対して、窯業協会進歩賞、窯業協会学術賞、アメリカ・セラミックス学会フェロー、日本複合材料学会功労賞、日本セラミックス協会名誉会員を受賞している。

また、学術審議会専門委員、産業技術審議会専門委員、産業技術審議会評価部会委員、新エネルギー・産業技術総合開発機構材料委員会委員等を努めるとともに、第二回エンジニアリングセラミックス国際会議議長、第三回高温セラミックスマトリックス複合材料国際会議議長、日本複合材料学会会長等、国内外の重要なポストについた。

本協会運営に関しては、12 年間に亘って理事を務めるとともに、関東支部長、高温・構造材料部会長、基礎科学部会長等を努め、協会の発展に大きく貢献した。

以上、同氏は本会における活動を通じてセラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げるとともに、長年にわたって日本セラミックス協会の活動に極めて多大な貢献をされた。よって、日本セラミックス協会功績大賞に値するものとして推薦する。

略 歴 1957 年 3 月京都工芸繊維大学工学部卒業。1963 年 3 月東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。同年 4 月東京工業大学原子炉工学研究所助手、以後同学工業材料研究所助教授、同研究所教授、同学工学部無機材料工学科教授、1994 年 4 月同学名誉教授。山梨大学工学部教授、同 11 年 3 月山梨大学定年退官。日本複合材料学会会長、学術審議会専門委員、産業技術審議会専門委員、産業技術審議会評価部会委員、新エネルギー・産業技術総合開発機構材料委員会委員等歴任。

受賞歴 1968 年窯業協会進歩賞、1976 年手島記念研究論文賞、1984 年窯業協会学術賞、1998 年アメリカ・セラミックス学会フェロー、2009 年日本複合材料学会功労賞。

協会歴 1978～1979 年度、1984～1985 年度、1987～1992 年度、1994～1995 年度理事、2011 年度～名誉会員